

閣下第三八二號

案起

昭和十五年十二月七日

閣議決定

昭和十五年十二月七日

施行

昭和 年 月 日

内閣總理大臣 齋藤

内閣書記官長 齋藤

内閣書記官 齋藤

外務大臣 齋藤

陸軍大臣 齋藤

文部大臣 齋藤

逓信大臣 齋藤

厚生大臣 齋藤

内務大臣 齋藤

海軍大臣 齋藤

農林大臣 齋藤

鐵道大臣 齋藤

平糶大臣 齋藤

大藏大臣 齋藤

司法大臣 齋藤

商工大臣 齋藤

拓務大臣 齋藤

皇國警察 齋藤

別紙企畫院總裁上申

經濟新體制確立ニ關スル件

二六

概論

經濟新體制確立要綱 第一 基本方針

日滿支ヲ一環トシ大東亞ヲ包容シテ自給自足ノ共榮圈ヲ確立シ、其ノ
國內ニ於ケル資源ニ基キテ國防經濟ノ自主性ヲ確保シ官民協力ノ下ニ
重要産業ヲ中心トシテ綜合的計畫經濟ヲ遂行シ以テ時局ノ緊急ニ對處
シ國防國家體制ノ完成ニ資シ依ツテ軍備ノ充實國民生活ノ安定國民經濟
ノ恒久的繁榮ヲ圖ラントス

而シテ之ガ爲ニハ、(一)企業體制ヲ確立シ資本、經營、勞務ノ有機的一
體タル企業ヲシテ國家綜合計畫ノ下ニ國民經濟ノ構成部分トシテ企業
擔當者ノ創設ト責任トニ於テ自主的經營ニ任セシメ其ノ最高能率ノ發
揮ニ依ツテ生産力ヲ増強セシメ、(二)公益優先、職分奉公ノ趣旨ニ從ツ
テ國民經濟ヲ指導スルト共ニ經濟團體ノ編成ニ依リ國民經濟ヲシテ有
機的一體トシテ國家總力ヲ發揮シ高度國防ノ國家目的ヲ達成セシムル
ヲ要ス

右閣議ニ供ス

通牒案

昭和十五年十二月七日

内閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

昭和十五年十二月六日上申(企畫院上申 第二九〇號)經濟

新體制確立ニ關スル件上申ノ通閣議

決定相成候

通牒案(一)

昭和十五年十二月七日

内閣書記官長

各省大臣

法制局長官

對滿事務局長官

興亞院總裁

情報局總裁

夜(方通)

經濟新體制確立並其關係件別紙ノ通

閣議決定相成候條依命此旨及通
牒候

閣議決定相成候條依命此旨及通
牒候

主任 第一部 秋水調査官

企畫院上申第二九〇號

昭和十五年十二月六日

企畫院總裁 星野直



内閣總理大臣 公爵 近衛文磨 殿

經濟新體制確立ニ關スル件

標記ノ件別紙「經濟新體制確立要綱」ノ通閣議決定相成様致度本院官制第一條第一項第一號ニ依リ此段及上申候



經濟新體制確立要綱

第一 基本方針

日滿支ヲ一環トシ大東亞ヲ包容シテ自給自足ノ共榮圈ヲ確立シ、其ノ
國內ニ於ケル資源ニ基キテ國防經濟ノ自主性ヲ確保シ官民協力ノ下ニ
重要産業ヲ中心トシテ綜合的計畫經濟ヲ遂行シ以テ時局ノ緊急ニ對ス
シ國防國家體制ノ完成ニ資シ依ツテ軍備ノ充實國民生活ノ安定國民經濟
ノ恒久的繁榮ヲ圖ラントス

而シテ之ガ爲ニハ (一)企業體制ヲ確立シ資本、經營、勞務ノ有機的一
體タル企業ヲシテ國家綜合計畫ノ下ニ國民經濟ノ構成部分トシテ企業
擔當者ノ別任ト責任トニ於テ自主的經營ニ任セシメ其ノ最高能率ノ發
揮ニ依ツテ生産力ヲ増強セシメ (二)公益優先、職分奉公ノ趣旨ニ從ツ
テ國民經濟ヲ指導スルト共ニ經濟團體ノ編成ニ依リ國民經濟ヲシテ有
機的一體トシテ國家總力ヲ發揮シ高度國防ノ國家目的ヲ達成セシムル
ヲ要ス

本要綱ノ實施ニ當リテハ現下ノ時局ニ鑑ミ其ノ緊急ナルモノニ重點ヲ
置キ必要ニ應ジ遂次之ヲ實施スルモノトシ生産力ノ低下、配給ノ不
均ヲ生ズルコトナク民心ノ不安ヲ來スコトナキヲ期ス
尙本要綱ノ整備ニ即應シテ關係行政機構及其ノ事務ノ再編成ヲ行フ

第二 企業 體制

企業體制ヲ獨立シ各個ノ企業ヲシテ國家目的ニ從ヒ其ノ創意ト責任トニ於テ之ヲ經營セシメ生産ノ確保増強ヲ期ス

一、企業ハ民營ヲ本位トシ國營及國策會社ニ依ル經營ハ特別ノ必要ナル場合ニ限ル

二、企業ハ其ノ性質ニ依リ一定ノ基準ニ從ヒ之ヲ設立等ニ付必要ニ應ジ制限ヲ加フ

三、企業ハ其ノ性質ニ依リ一定ノ基準ニ從ヒ生産計畫及ニ技術的見地ヨリ見テ之ヲ分離結合セシムルコトヲ得

四、中小企業ハ之ヲ維持育成ス但シ其ノ維持困難ナル場合ニ於テハ自主的ニ整理統合セシメ且其ノ圓滑ナル轉移ヲ助成ス

五、企業ハ國家的生產増強ニ寄與セシメ又其ノ恒久的發展ヲ遂ゲシムル爲適當ナル指導統制ヲ加フ

イ、主要物資ノ價格ヲ公定スルニ當リテハ中崩生産等ヲ基礎トシ
適正利潤ヲ計上ス

ロ、國民經濟ノ秩序保持ニ障害アル投機的利潤及獨占的利潤ノ發
生ヲ防止スルト共ニ適正ナル企業利潤ヲ認め特ニ國家生産ノ増
強ニ寄與シタル者ニ對シテハ其ノ利潤ノ増加ヲ認め

ハ、企業利益ノ分配ニ當リテハ適當ナル制限ヲ加フルモ其ノ超過
部分ハ公債其ノ他ヲ以テ留保シ一定條件ニ從ヒ一定期間後ニ於
テ處分スルノ途ヲ拓ク

ニ、發明發見ニ依リ國家生産ノ増強ニ寄與シタル者ニ對シテハ特
別ナル報奨ノ途ヲ講ス

ホ、技術ハ之ヲ公開ハ途ヲ拓キ其ノ優秀ナルモノニ對シテハ適當
ノ報奨ヲ與ヘ以テ其ノ進歩ヲ促進ス

ヘ、企業ノ設備更新ヲ容易ナラシメ其ノ他企業ノ基礎ヲ強固ナラ
シムル爲償却ヲ強化ス

ト、企業ノ國家の生産増強ニ對スル對策ニ應ジ重點的ニ其ノ擴充
發展ヲ助成ス

六、農業水産業經營ノ企業化制ニ付テハ別途之ヲ考慮ス

第三 經濟團體

一、經濟團體組織

イ、重要産業部門ニ付テハ企業及組合ヲ單位トシ同一業種ニ限スル業者又ハ同一物資ニ關スル業者ヲ組織スル業種別又ハ物資別經濟團體ヲ組織ス

其ノ基本條件左ノ如シ

- (1) 經濟團體ハ之ヲ特殊法人トス
- (2) 經濟團體ハ業者ノ推戴ニ基キ政府ノ認可スル理事者指導ノ下ニ之ヲ運営ス

ロ、其ノ備、産業ハ前項ニ準ジ必要ニ應ジ業種別又ハ地域別系統別ニ組織ス

ハ、外地ノ企業ハ外地各地域ニ於テ前各項ニ準ジ夫々經濟團體ヲ組織ス但シ内地トノ一元的統制ヲ特ニ必要トスルモノニ付テハ全國

的統制ニ付適當ナル措置ヲ講ス

二、經濟團體ヲ組織スルニ付特ニ留意スベキ事項左ノ如シ

- (1) 經濟團體ノ組織ニ當リテハ重要ナルモノヨリ逐次必要ノ順序ニ依リ之ヲ組織ス

- (2) 重要ト特ニ必要ナル企業ニ付テハ別途之ヲ考慮ス

- (3) 各産業ヲ統制スル最高經濟團體ハ必要アリト認めタルトキニ於テ之ヲ設置ス

經濟團體ノ機能

一、重要産業經濟團體ノ機能左ノ如シ

- (1) 政府、協力機關トシテ重要政策ノ立案ニ對シ政府ニ協力スルト共ニ實施計畫ノ立案及其ノ計畫實行ノ責ニ任ジ且必要ナル場合ニ於テハ政府ニ意見ヲ具申ス

- (2) 前項ノ計畫實行ニ付下部經濟團體及所屬企業ノ指導ニ任ズ
- (3) 必要ニ應ジ生産、配給等業務ノ實施調査ヲ爲スト共ニ生産品

品質規格、検査、衛生ニ當リ下部経済團體ヲ監督ス

(4) 共同計算其、他ノ方法ニ依リ物産事業等ニ對シ共助ノ實ヲ果
ス亦兼、發展ニ資ス

口、其、他、團體ノ機能ヲ補ヘ右ニ決ス

三 政府、監督及大政翼賛會ト、關係

イ、政府ハ經濟團體ヲ指導監督ス

經濟團體ノ整備ニ伴ヒ其ノ運営ハ之ヲ出來得ル限り自主的ナラシ
メ并進監督ハ大綱ニ止ム

ロ、政府ハ經濟團體ノ組成發達ヲ圖ル爲大政翼賛會ト協力ス

四 農林水産部ニ關スル經濟團體組織ニ付テハ別途之ヲ考證ス

閣下第四〇八號

案 起

昭和十五年十二月五日

閣議決定

昭和十五年十二月五日

施行

昭和 年 月 日

内閣總理大臣 齋藤

内閣書記官長

内閣書記官

外務大臣 佐	陸軍大臣 磯	文部大臣 梅	遞信大臣 坊	厚生大臣 尾
内務大臣 佐	海軍大臣 石	農林大臣 喜	鐵道大臣 西	警務大臣 五
大藏大臣 坂	司法大臣 高	商工大臣 山	拓務大臣 坂	

別紙企畫院總裁上申
第三次特別輸入ニ関スル件